



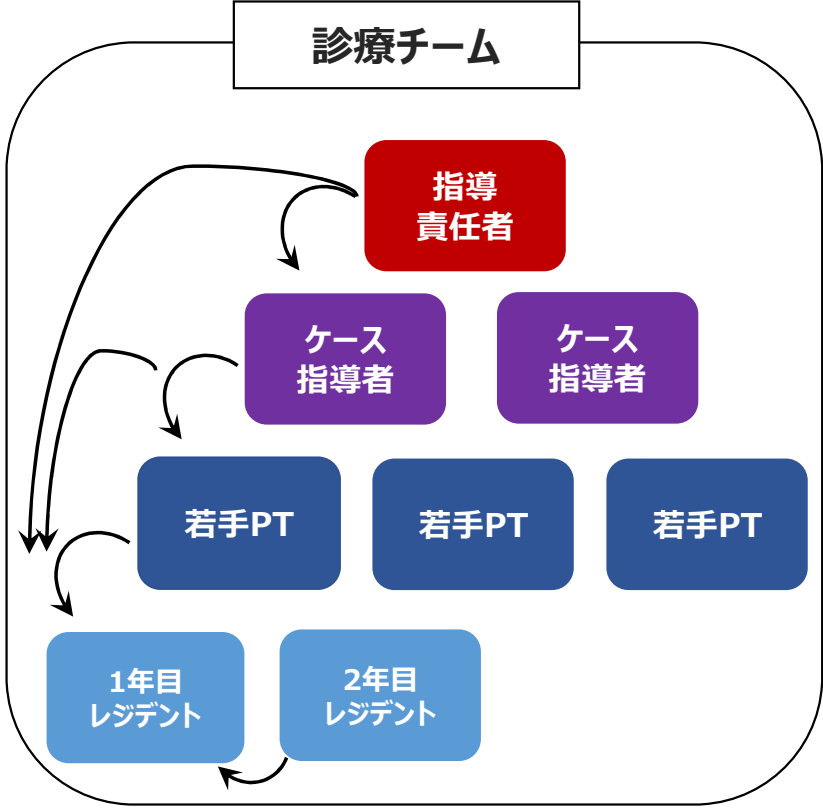
神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 紹介

神戸市立医療センター中央市民病院
リハビリテーション技術部 理学療法士 レジデント

神戸市立医療センター中央市民病院 レジデント制度の概要

神戸市立医療センター中央市民病院のレジデントプログラムの**内容**と**体制**

事項	要件	備考
応募資格	理学療法士免許を有するもの、免許取得見込みのもの	
人員配置	レジデントプログラムディレクター（認定理学療法士以上）およびメンター	
期間	1～2年	新卒については2年間が望ましい。フェローシップは別規定
処遇	職員と同等	各施設の条件から最小ライン
基準	日本理学療法士協会新人教育プログラムに準ずる	
研修内容		
実務研修 (臨床)	患者の評価・治療	25～30時間／週
	メンターと共に患者を治療する ("mentored session")	5時間／週
	チーム医療に参加する（カンファレンス、回診等）	5時間／週
講義研修 (教育)	1. レクチャー 2. 論文抄読会（Journal Club） 3. 症例検討会 4. 研究セミナー 5. Problem Learning Discussions 6. カルテ記載（サマリなどを早く正確に書ける能力を養う） 7. 病院経営・診療報酬研修会	5時間／週
学術研修 (研究)	1. 症例報告 2. 学会発表 3. 論文投稿	2回／年
制度の 自己評価	レジデントに対するメンターの評価 メンターに対するレジデントの評価 レジデントプログラムディレクターに対するレジデントの評価	
到達目標	認定理学療法士試験の合格、レジデント共通の定期筆記試験および口頭試験の実施	
指導体制	専門理学療法士、認定理学療法士による指導	
外部評価	外部評価（理学療法士協会または制度実施病院による相互評価） 目標の達成率・試験・カリキュラムの実績の評価	



平成28年 文部科学省 診療参加型臨床実習実施ガイドライン

主に臨床・教育・研究の3つで構成されている**医師の教育体制**を参考にした屋根瓦の体制

理学療法介入の場面

		専従PT	担当PT	専従OT	担当OT	専従ST	担当ST
管理者		2名					
重症病棟 (365リハ)	EICU（8床）/CCU（6床）/救急病棟（34床）、第2救急病棟(8床）/MPU(8床)	5名	27名 (レジデント20名)		15名 (レジデント7名)	1名	10名 (レジデント5名)
	G-ICU（8床）/G-HCU（16床）/C-HCU（12床）/4階西心臓センター（33床）、4東（45床)	6名					
	SCU(12床）/5階西脳卒中センター5階東(33床)	4名		1名			
混合病棟	6階西・東（92床）主に運動器疾患・がん疾患	2名					
	7階西・東（90床）主に呼吸器疾患・脳血管疾患	3名				1名	
	8階西・東（90床）主に運動器疾患・がん疾患	2名					
	9階西・東（90床）主に廃用症候群	2名					
	5階南（60床）	4名		1名			
計		55名（レジデント20名）		17名（レジデント7名）		13名（レジデント5名）	

専従制度により複数回の介入が実現



重要なのはリハビリ時間だけでなくリハビリ頻度
専従セラピストは担当セラピストの介入の合間を狙って介入

レジデント1年目：院外研修・回復期リハビリテーション研修

発症直後



発症2週間後



リハビリ転院

発症3ヶ月



地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
Kobe City Center General Hospital



一般財団法人 神戸マリナーズ厚生会
ポートアイランド病院

自らが**急性期**で治療していた患者の**回復期**での経過を学ぶ

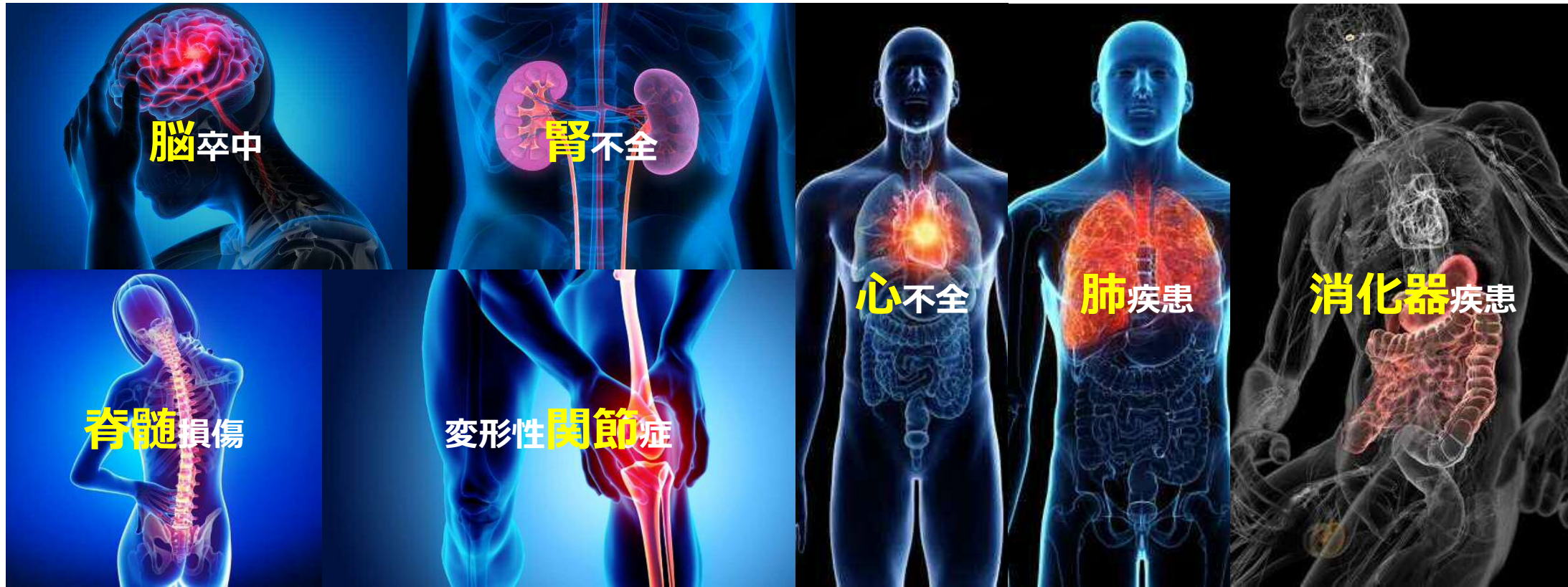
レジデント2年目：院外研修・訪問リハビリテーション研修



自らが**急性期**で治療していた患者の**生活期**や**地域社会**での経過を学ぶ

レジデント×大学院の実際 1年間経験してみた感想

担当症例



Multimorbidity (1人の患者が複数の疾患を併存している状態) の時代
2年間で**500例**ほど担当

1年目からICU (集中治療室) における理学療法を経験

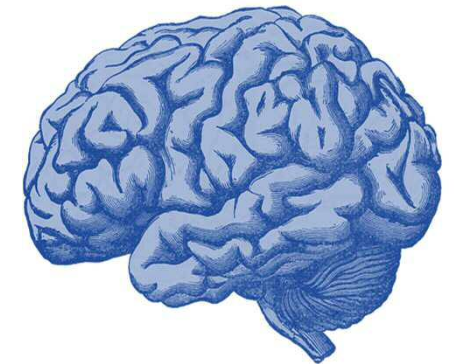
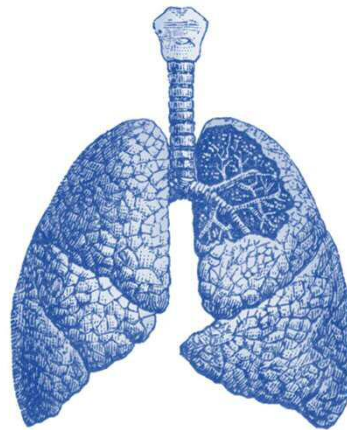
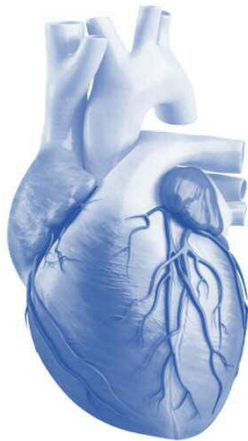


疾病発症後の**超急性期**より理学療法が開始
医師や看護師と連携することで**リスク管理**の実際を学ぶことができる

現在ゼミで研究中のテーマ

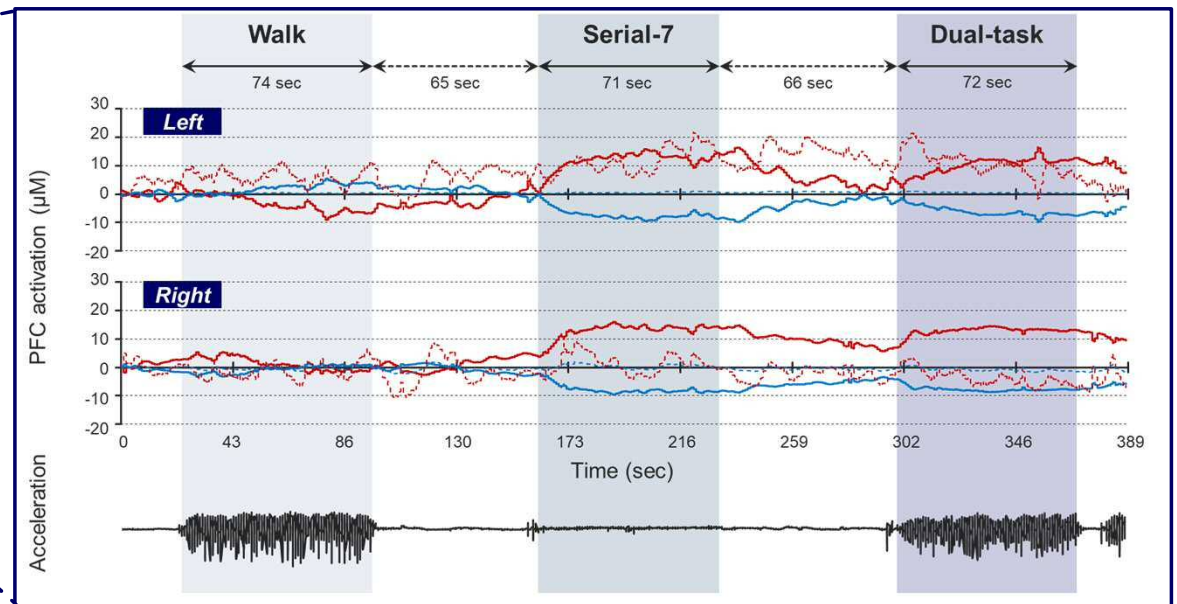
心大血管外科手術後患者における
心肺運動負荷試験中の
Peak O₂ Pulseと脳酸素動態の関係

間質性肺疾患患者において
認知症の有無は
再入院率に影響を及ぼすか



さまざまな臨床疑問に答えるために**多面的に**臨床研究を実施
独立して研究を実施できる力を徹底的に鍛える

臨床研究の一例



研究に利用できる当院の環境



病院図書館
24時間利用可能
個室ブースあり



南館ゼミ室
24時間利用可能
統計解析ソフトや書籍あり



臨床研究推進センター
研究の相談可能
定期的なセミナーあり

この他にもリハビリに関する多くの書籍があるスタッフルームも
臨床や研究するにはもってこいの環境

学術大会や研究会の参加



学術大会や研究会には積極的に参加できる

レジデント×大学院を1年経験してみた感想

患者様のみならず
医師や看護師に求められる
理学療法が少しずつわかってきた！

急性期ならではのニーズに
合わせた理学療法を
考えられるようになってきた！

さまざまな疾患や入院初日の
理学療法を経験できる！

文献の臨床応用とその注意点が
わかってきた！

臨床疑問を
考えるようになった！

大学院の講義内容を
そのまま臨床に活かせる！



